

論文発行に関するご案内

(一社) 実践教育訓練研究協会 論文委員会
2018年11月1日改訂

1. 論文の基準

1.1 論文として扱う内容の範囲

- (1) 実践教育訓練技法に関する内容
 - ① 教育訓練技法の改善・開発に関すること
 - ② 効果的な OJT 技法の開発に関すること
 - ③ 「ラーニングスピード」、「オン・デマンド教育」など、新しい訓練ニーズに関すること等
- (2) 実践教育訓練に使用する教材、教具等の開発に関する内容
 - ① 新しいコンセプトとしての教材に関すること
 - ② 新しい測定器などを含めた教具の開発と製作に関すること等
- (3) 実践教育訓練の方法論に関する内容
 - ① 「学習意欲」を高揚させる方法論に関すること
 - ② 技能習得や向上のための方法論（技能の技術化）に関すること等
- (4) 4部会それぞれの専門分野における工学的、技術的基礎とその応用に関する内容
 - ① 卒業研究・卒業制作に関すること
 - ② 企業との共同研究に関すること等
- (5) 職業教育等に関する内容
 - ① 学校における職業教育及び就職指導に関すること
 - ② インターンシップに関すること
 - ③ 小中校生などに向けた理科・技術教育に関すること
 - ④ キャリア教育に関すること

1.2 論文の具備すべき要件

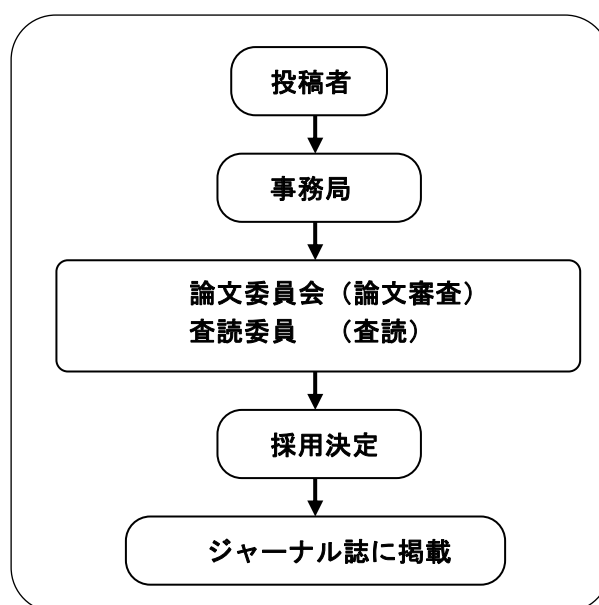
- (1) 有用性・発展性
- (2) オリジナリティ（新規性）
- (3) 完結性
- (4) 信頼性

1.3 論文審査基準

- (1) 論文の筆頭者は、会員であること。連名者は、非会員でもよい。
- (2) 論文として扱う内容の範囲に合致していること。
- (3) 投稿規定、執筆要項に掲げる要件を満たしていること。
- (4) 論文の具備すべき要件をみたしていること。

1.4 論文原稿の流れ

論文の投稿以降の流れを、以下に示す。



2. 投稿規定

- (1) 論文ならびにこれらに対する紙上討論の投稿は会員に限る。
- (2) 論文は、刷り上り6ページ程度を原則とする。
- (3) 掲載された論文に対する会員からの討論は、紙上討論としてこれに対する著者の回答と共に掲載する。

受付は論文掲載後5ヶ月以内とし、匿名は認めない。質問及び回答はそれぞれ会誌1ページ以内とする。ただし、採否は論文委員会が決定する。

- (4) 投稿希望者は、「論文申込書」に必要事項意を記入のうえ、協会に申し込むこと。
- (5) 論文原稿はA4のPDFファイルに論文掲載時の体裁でまとめ、Eメールまたはメモリで提出すること。
- (6) 原稿は随時受け付け、原稿受理日は原稿が本会に到着した日とする。
- (7) 原稿送付先

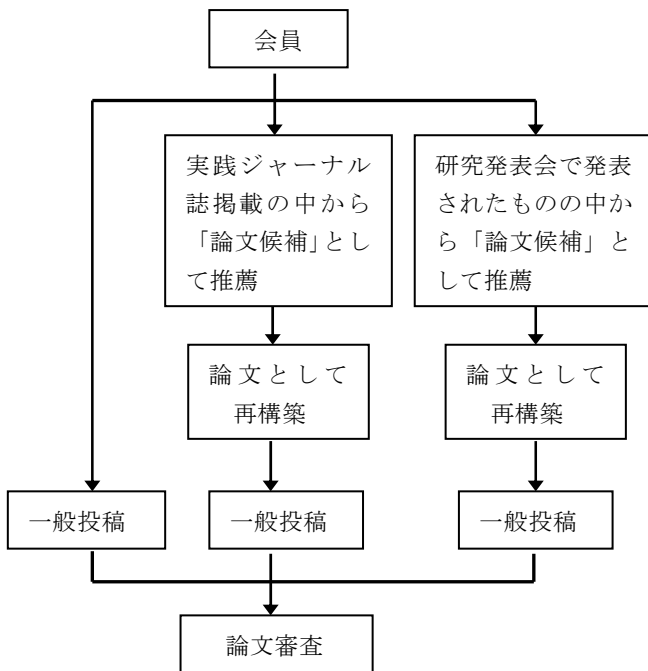
メールアドレス：jissen.ronbun@gmail.com

住所：〒185-0021

東京都国分寺市南町2-18-36-203

一般社団法人

- (8) 原稿の採否は、査読の結果により論文委員会が決定する。論文委員会は著者に内容の訂正または短縮を求めることがある。
- (9) 著者が内容の訂正または短縮を求められて2ヶ月以内に提出しないときには、原稿の受付日は無効とする。
- (10) 掲載が決定した後、A4用紙に作成した正原稿を著者校によりをもって投稿の前手続きを終了する。
- (11) 掲載論文の著作権は原則として協会に帰属する。ただし、著者がその一部を引用することを妨げない。
- (12) 掲載された論文の記事の内容についての責任は、すべて著者が負うものとする。
- (13) 掲載否となった論文の返却理由に対して、著者は意見を添えて原稿を再提出することができる。ただし、同一論文に対しての反論は、原則として1回限りとする。
- (14) 論文の投稿には、以下の3つのケースがある。
- ① 一般投稿
 - ② 実践ジャーナル掲載の中から、「論文候補」として推薦。
 - ③ 研究発表会で発表されたものの中から、「論文候補」として推薦。
- 上記②、③については、論文として再構築して後に一般投稿する。
論文の投稿までの流れを、以下に示す。



3. 執筆要項

3.1 原稿の作り方

- (1) 原稿にはA4用紙を用いる。

- (2) 原稿論文は、表題・著者名・本文・参考文献・付録を含め、刷り上がり6ページを標準とする。
- (3) 原稿第1ページには、まず、表題・著者名を記入（和文と英文）し、次に日本語の要約を記入する。
標題に副題がある場合の英文は、副題の下の行に付ける。
- (4) 本文は、2段組にする。
- (5) 各段の1行は25文字、2ページ以降の1段は50行を標準とする。
- (6) 第1ページには、左コラム下に脚注をもうける。
- (7) 図、表、写真は、本文中に割り付けて貼る。
正原稿には鮮明な図、表、写真を貼る。

3.2 文章表記上の注意

- (1) 原稿は、簡潔な表現により横書きを口語体とし、常用漢字および新かなづかいのひらがなを用いる。ただし外国語はカタカナまたは言語のままとする。
- (2) 文部省、JISなどで定められた学術用語、記号、定義などがあるときはこれに従う。
- (3) 単位は、原則として国際単位系(SI)を用いる。(JISZ8203参照)。ただし、当分の間、SI以外の単位とそれに基づく間山地を{ }で書き添えてもよい。
- (4) 数字記号、量記号および変数の記号はイタリック体とし、なるべくJIS(Z8201、Z8202参照)などで定められたものを使用し、記号表としてまとめて表記することが望ましい。
- (5) 見出しは、1., 2., ……のように番号をつけ、行の左揃えに書く。小見出しは、1.1, 1.2, ……として左に書く。

3.3 数式・記号の字体指定上の注意

- (1) 量記号はイタリック体、単位記号はローマン体を指定する。また、大文字・小文字等が明確に区別できるように指定する。
- (2) 文章から独立した数式は、ローマン体のみ指定する。(指定のない部分はイタリックで組まれる)。文章と同じ行中の数式についてはすべての文字についてローマン、イタリック等の指定をする。字体指定の方法は印刷校正記号JISZ8208-1965にならうこと。
- (3) log, ln, sin, cos, tan, lim, e (exp)などの数学記号は、ローマンの指定をする。
- (4) 単位、元素記号、虚数単位はローマンの指定をする。
- (5) ベクトル、テンソル、行列はポールドイタリックを指定する。

- (6) ギリシャ文字を手書きするときは「ギ」と指定する。

3.4 図表作成上の注意

- (1) 図や表にはそれぞれ図 1 (Fig. 1)、表 1 (Table 1) のように番号をつけて説明を書く。本文中で図、表に言及するときには、図 1、図 2、……、表 1、表 2、……とする。
- (2) 図の大きさは、会誌掲載時と同縮尺とする。不適當なものは著者に再提出を依頼する。
- (3) 図中の文字、記号の大きさ、線の太などは縮尺に合わせて書く。文字の縮尺後の大きさは高さ 2 mm を標準とする。

3.5 その他

- (1) 参考・引用文献は、関係箇所の上肩に番号 (1) のように記入し、本文の末尾に次のような形式で記載する。
- ① 論文の場合
著者：論文題目, 誌名, 巻一, 始ページ / 終ページ (発表年)
- ② 単行本の場合
著者：書名, ページ, 発行所名 (発行)
- (2) 脚注は、本文の下に横線を引いてその下に記入する。記号はページごとに*、**のようにする。
- (3) 誌上討論は、箇条書きでよい。必要ならば詳細な説明を添付してもよい。説明は掲載しない。討論は再質問、再回答にて終結する。
- (4) 投稿料は、無料とする。ただし別刷り料金 (税込み) は、以下の通りである。
- 50 部 : 20,000 円
 - 100 部 : 30,000 円